

会議等議事要旨記録票

日 時	令和3年4月9日（金曜日）午前10時00分から午前11時00分まで		
場 所	30S会議室（Web会議）		
会議等名	リスクコミュニケーションチーム会議		
議 題	都民の意識及び取組実態調査の公表にかかる意見交換		
参加者	賀来座長、チームメンバー、福祉保健局関係部長・課長等		
配付資料	別紙のとおり		
結 果 ※当てはまる項目 にチェック	<input type="checkbox"/> ①事案について了承（意見なし） <input checked="" type="checkbox"/> ②事案について了承（意見あり） <input type="checkbox"/> ③事案について要修正 <input type="checkbox"/> ④事案について不承諾 <input type="checkbox"/> ⑤別紙にて情報共有（説明のみ）		
主な内容	<p>（資料説明の後、意見交換）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を公表するにあたっては論点が三つあり、一つ目は公表のタイミング、二つ目が公表の方法、三つ目が内容。 ・タイミングについては早い方がいいだろうというのがリスクコミチームの見解で、4月15日か22日のモニタリング会議を目標にしてはどうかと考えている。3月に行った調査なので、鮮度が落ちるとよくないのと、まん延防止等重点措置、高齢者のワクチン接種が始まることもあり、それに関連した方が使えると良いとの観点から、この二つの週を狙っている。 ・公表の方法は、過去の予備調査・緊急調査同様、モニタリング会議での報告、同日のnote掲載、プレスリリースという3つ。 ・内容については、本調査は設問数が多く、内容もすごく深掘りして聞いている。これを全部紹介することはできない。特にモニタリング会議は時間が限られているので、発表内容を「感染予防策」「高齢者のワクチンに対する意識」「受診をめぐる意識と実態」の3項目に絞り込むこととしたい。 ・「調査しました」ということを発表するだけだとコミュニケーションにならない。調査結果がどういう意義を持っているのかということをもっと肉付けして喋らないと、全く伝わらないし、報道の方もうまくメッセージを拾えない。「調査の結果、現状はこうなっているから、今こうしなければならぬのではないかと考えている」と都の考えを出すことで、報道なり社会のレスポンスを期待できる。 ・リスクコミュニケーションの機能には広報だけじゃなくて、広聴がある。東京都のリスクコミとして、調査結果の公表により、広報と広聴を示していきたい。 		
作成者	計画課 上條	確認者	東京感染症対策センター担当 課長 石田